

祝祭日には国旗を掲揚しましょう

敬神尊皇 黎



明報恩感謝

監修/日刊ひぐらし 〒151-0071東京都渋谷区本町1-30-18-107 http://www.higurashi.net/ 第0006号
護國青年會議 http://www.gokoku.net/ 発行人/山本修三 編集人/戸出蒼流 平成16年12月1日



被災者にお言葉をお掛けになる両陛下

「力をあわせて希望を持って復興を」 両陛下、新潟中越地震被災地をご訪問

天皇、皇后両陛下は新潟県中越地震の被災者を見舞うため11月6日時折余震の起きる中、新潟県入りし長岡市、小千谷市、川口町の避難所を訪れ、被災者の健康をお気遣いされながら「力をあわせて、希望を持って復興を」と励ましのお言葉を掛けられました。全村民が避難し集落が水没の危機にある山古志村の人たちに「皆で助け合って、きれいな村を取り戻してください」と語り掛けると多くの村民は感涙に咽んだという。また救助や復旧支援活動を行っている自衛隊や消防、警察、自治体関係者にも労いのお言葉を掛けられました。国家元首であらせられる天皇陛下がお掛けになったお言葉は、家族を奪われ、住居を破壊され、故郷さえも失いかけて絶望の淵にいる被災者の皆様に『生きる望み』と『立ち直るための勇気』と『明日への活力』をお与えになったことと思います。

首相や岡田民主党首や、被災地が選挙区である田中真紀子がどんなに大勢の人と握手をしようともそれは見せ掛けにすぎない。人情の欠片も無い言葉を掛けたところで、被災者に望みも勇気も活力も与えることはできない。なぜならば彼らの行動には、被災者を人気取りの道具として利用しようとする魂胆と、国民に向けてのパフォーマンスだけが垣間見えるからである。厳寒と豪雪の時季が迫っている被災地の皆さんを心底から心配しているのであれば“どっちが先に行った”とか“どっちが長くいた”などと愚にも付かない事を争っている暇は無いはずである。

阪神淡路大震災の時にも、両陛下は避難所を訪れ家族の輪の中に入り見舞いのお言葉を掛けられました。両陛下のお言葉に思わず泣き出してしまった若い女性を皇后陛下が優しく抱きしめられたことがありました。両陛下のお姿とお言葉が、震災で途方に暮れていた人々に大きな希望を与えられ、その後の復興活動の原動力となり、壊滅的な被害を受けた神戸と、周辺地域は奇跡的な復興を成し遂げました。ご自身のことよりも常に国民のことをご心配され、悲しみも苦しみも喜びも国民とともにされる大御心が被災者の皆様の大きな大きな力となることでしょうか。被災者の皆様、厳しい自然と闘いながらの復旧作業は容易なことではないでしょうが、一日も早い復興を心からお祈りしています。

編集人/戸出蒼流

「青年の死」と「国家のあるべき姿」

イラクで武装集団に拉致された邦人男性が殺害されました。確かに彼の安易な行動がきっかけではあるが、彼は命と引き換えに“平和ボケした日本”に警鐘を鳴らしてくれました。現在我が国は日米同盟に基きイラクに自衛隊を派遣しているが、石油利権を狙った米国の侵略行為に加担して、自衛隊の方々の尊い命が危険に晒されることには断固として反対する。誤解の無いよう述べておくが私が反対する理由は野党やサヨク勢力の反対理由と観点を同じくするものではない。イラク特措法という悪法の下、戦地に於いては丸腰と言ってもいい状態で自衛隊を派遣し、イソギンチャクの如く米国に追従することが独立した国家と言えるのだろうか？甚だ疑問である。イラクで起きた悲しい事件について我々には同胞のおかした失敗を同胞として学び、未来の同胞達に伝えなければならない義務がある。彼の死を他山の石と捉え「国家のあるべき姿」を論じる良い機会としたいものである。

編集部/吉田源太

第一回護國青年會議勤勞奉仕



護國青年會議勤勞奉仕隊

去る10月20日台風23号が迫る中、護國青年會議勤勞奉仕隊の第1回勤勞奉仕が、武蔵野御陵で行われました。宏大なる御仁慈が鎮

まれる神奈備をお護りできる喜びの現われなのか、荒天の中でも御聖徳に包まれた精彩なる一日でした。神を敬い祖先を崇める、そして大自然の中で生を受け、その中で生かされているということに感謝するという、人が社会を造る原点の徳目が今こそ必要なのではないでしょうか。祖先、先人に感謝し生命の連鎖の有難さを「お蔭様」と言葉に表すことで正気な社会を呼び戻す言霊となるでしょう(参加有志・談)